

学校の教育目標

○考える人になろう	○心ゆたかな人になろう	○たくましい人になろう
○みんなのためにつくす人になろう		

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- 1 各教科の年間指導計画と評価計画の充実を図るとともに、適正な教育課程を実施する。
- 2 国語、数学、英語において、少人数指導、習熟度指導を展開し、個に応じた指導を充実させる。
- 3 授業を大切にする規範意識をもたせるための授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進める。
- 4 授業スキル、学習スキルを充実させ、生徒が分かる授業を実践し、知的な達成感を味わわせる。
- 5 各教科等で言語活動を充実させる学習内容を工夫し、表現力を育む教育を推進する。
- 6 各種検定の取組やサブリノートの活用を通し、自学自習の意識を向上させ学習習慣の確立を図る。

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	国語、数学、英語において、少人数指導、習熟の程度に応じた指導を展開する。また、他教科の一斉指導でも指導法の工夫を行い、個に応じた指導を充実させる。研究の成果である「授業スキル」「学習スキル」の向上を目指して生徒が分かる授業を実践し、知的な達成感を味わわせる。授業スキルとして「学習課題を明確にさせた授業」「コミュニケーション力を育成する授業」を、学習スキルとして「授業規律の確立」を毎時間の授業で目指す。また、全教員が校内研究に則った学習指導案を一つ以上作成し、校内研修会等で研究授業を公開する。
思考力・判断力・表現力の育成	生徒が授業で身に付けた表現力を活用する場面を授業及び行事や学年・学級の活動に意図的に設定し、言語活動の充実を図る。朝読書を中心にした朝学習の取組を充実させ、授業では身に付かない先人の知識・知恵を補完させる。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	始業前に朝読書に落ち着いた環境で取り組ませ、授業に臨む雰囲気づくりをする。各教科で指導と評価の一体化を目指した指導計画・評価計画を作成する。全員対象の2年次の漢字検定、数学検定、3年次の英語検定に向けて、各学年及び当該教科は計画的に事前学習に取り組ませる。また、各検定とも3年卒業期までに3級合格を目標とする。「生活と学習のサブリノート」を活用し、各生徒の家庭学習の状況を把握するとともに、保護者と連携を図り、家庭学習の習慣化を目指させ、自学・自習の能力を育成する。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題

	第1学年	第2学年	第3学年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思考し、自分の考えや調べた内容を発信する生徒がほとんどである。 ○ 話す態度や声の大きさ、話す内容の聞き取りはおおむね達成できている。 ○ 条件に沿って段落を意識して書くことができる。また互いに読み合って意見が言える。 ○ 説明的文章の内容理解や心情把握については平均を上回っている。 ○ 漢字の読みはほとんどの生徒が達成できている。 ▲ 読解における気持ちの説明や、作文自体に苦手意識を示す生徒が多い。 ▲ グループ活動（話し合い）をすることが苦手である。 ▲ 作文を推敲してよい文章にすること、時と場に応じた作文の書き方は平均を下回る。 ▲ 全体を通して主題を見いだしたり、要旨をまとめたりすることは未達成である。 ▲ 漢字の書き取り・話し言葉と書き言葉について達成できていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題が与えられると、意欲的に取り組む生徒が多い。 ○ 話す態度や声の大きさ、話す内容の聞き取りはおおむね達成できている。 ○ 書く力については、東京都の平均を大幅に下回っている。 ○ 読み解く力については東京都の平均を上回っている。 ○ 漢字の読みはほとんどの生徒が達成できている。 ▲ 与えられた課題には取り組むが、作文など書く作業に苦手意識を示す生徒が多い。 ▲ メモを活用しながらの聞き取り作業をすることが苦手である。 ▲ 作文の書き出しに苦勞する生徒がいるなど、取り組みにも時間がかかる。 ▲ 全体を通して主題を見いだしたり、要旨をまとめたりすることは未達成である。 ▲ 学習漢字（1006字）を作文の中で適切に使えない生徒がいる。語彙が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に積極的に取り組み、発言をする生徒が多い。音読・暗誦にも意欲的である。 ○ 提案の仕方を工夫し、ICT機器を用いたプレゼンテーションに意欲的に取り組み、場や目的に応じた発表ができる生徒が多い。グループ討議に取り組んでいる。 ○ 友人の発表をしっかりと聞き、きちんと評価できる。 ○ 豊かな発想でものをとらえて書く生徒が多く、論理的に構成した文章も書けるように成長した。 ○ 文章の内容をとらえることは概ねできている。 ○ 漢字や文法ビンゴなどの授業スキルの工夫や、補習などの学力補充により、言語事項の理解力は伸びており学習力サポートテスト・到達度テストの結果もよい。 ○ 古文、漢文に興味関心を持ち、理解が深まってきた。 ▲ ワーク・漢字シートや家庭学習、定期考査の取り組みが不十分の生徒が数名おり、学力が定着しない生徒もいる。提出物については良好である。 ▲ 声が小さい生徒や、授業内の学習事項や指示を聞き逃している

			る生徒が数名いる。 ▲論説文を読んで書くことが苦手 で、200字等字数制限のある記述を諦める生徒もいる。 ▲表現の工夫に着目し、構成を理解する力が不十分である。
数 学	○授業には、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。 ○自分の考えを数学的に表現することになれてきた生徒がいる。 ○負の数を含む整数の計算は、ほとんどの生徒が理解している。 ○数学でよく使う用語等、必要な知識はおおむね身につけている。 ▲自主学習の習慣がないため、知識や技能が身につかない生徒がいる。 ▲単に、答えを出せばよいと思っている生徒が多い。 ▲分数を含む計算、分数と小数を含む計算ができない生徒が多い。 ▲図形に関する理解に課題がある。	○授業には、意欲的に取り組む生徒が増えた。 ○自分の考えを数学的に表現することになれてきた生徒がいる。 ○文字式の計算、連立方程式の計算は、ほとんどの生徒が理解している。 ○数学でよく使う用語等、必要な知識はおおむね身につけている。 ▲自主学習の習慣がないため、知識や技能が身につかない生徒がいる。 ▲単に、答えを出せばよいと思っている生徒が多い。 ▲分数を含む計算、分数と小数を含む計算ができない生徒が多い。 ▲図形に関する理解に課題がある。	○意欲的に課題に取り組みに、授業に集中する生徒が多い。 ○自分の考えを数学的に表現できるようになった。 ○「式の計算」「方程式の計算」は、ほとんどの生徒が理解している。 ○「文字式」「連立方程式」は、ほとんどの生徒が理解している。 ▲文章題や難易度の高い問題では、あきらめてしまう生徒がいる。 ▲問題の意図するところを読み取ることが出来ない生徒が多い。 ▲「証明」に関する問題では理解できていない生徒が多い。 ▲「比例・反比例・一次関数」に関する問題を理解できていない生徒がいる。
社 会	○意欲的に発言することができる。 ○地理的事象を多面的に考察し、話し合うことができる。 ○資料や統計から特色を読み取ることができる。 ○世界の国々、気温、歴史上の人物についてほぼ到達している。 ▲提出物や発言において、良くも悪くも偏りが見られる。 ▲論述する問いに対し、事象に関わりを持たせまとめることができていない。 ▲読み取った内容をまとめ、文章にまとめることができていない。 ▲地域的特色、時代の背景について筋道を立てて理解することが難しい生徒もいる。	○ノートの取り方を工夫できる生徒がいる。 ○資料が示すことを単元にむすびつけ、発表することができる。 ○資料や統計等を白地図により作成できる。 ○世界の地形等を覚え、基本的な語句・用語について一応の理解をしている。 ▲一部の生徒に発表が偏り、参加意欲を見せない生徒が見受けられる。 ▲論述する問いに対し、積極性に欠ける生徒が見受けられる。 ▲資料から地域の気候や生活、歴史的事象に結びつけるのが難しい生徒もいる。 ▲様々な資料と結びつけての理解ができず、筋道をたてた理解には至らない。	○ノートの取り方を工夫できる生徒がいる。 ○資料が示すことを単元にむすびつけ、発表することができる。 ○資料や統計を読み取り、その特徴に気づくことができる。 ○現代社会のしくみについて基本的な語句・用語について一応の理解をしている。 ▲一問一答型の発表には積極的だが、自らの考えを述べることには積極的とはいえない。 ▲論述する問いに対し、積極性に欠ける生徒が見受けられる。表現力が不足している。 ▲資料から歴史的事象に結びつけるのが難しい生徒もいる。 ▲様々な資料と結びつけての理解ができず、筋道をたてた理解には至らない。
理 科	○前向きに授業を受ける生徒が多く、質問に対して意欲的に発言することができる。 ○生物とかんきょうについてはほとんどの生徒が到達できている。 ○酸素の捕集法や月と太陽のモデルについてはほとんどの生徒が到達できている。 ○蒸散についてほとんどの生徒が到達できている。 ▲話をきちんと聞けない生徒やノートをとることができない生徒が数名いる。 ▲大地のつくりと変化について理解できていない生徒が5割いる。 ▲てこのはたらきについて理解できていない生徒が6割いる。 ▲心臓や腎臓のはたらきや消化について理解できていない生徒が7割いる。	○関心がある生徒が多く、発言をする生徒が多い。 ○9割以上の生徒が圧力の大きさと物体のへこみ方を関連づけて考えることができる。 ○9割以上の生徒が酸素であることの適切な確認方法を考えることができる。 ○9割弱の生徒がメスシリンダーの目盛りを正確に読み取ることができる。 ○9割以上の生徒が二酸化炭素に石灰水を白濁させる性質があることを理解している。 ▲授業内容を日常生活に結びつけることができない生徒が多い。 ▲3割程度の生徒しか、地層がたい積する間に起きたことを推測することができない。 ▲4割弱の生徒が顕微鏡を正確に使うことができない。 ▲3割弱の生徒しか被子植物の花のつくりを理解していない。	○落ち着いた授業を受け、意欲的に発言することができる。 ○化学反応式については7割近い生徒が理解できている。 ○気体の捕集法について6割の生徒が理解している。 ○生物の分類と進化については7割以上の生徒が理解できている。 ▲班での話し合いに積極的に参加できない生徒がいる。 ▲磁石と電流による磁界の向きを理解できていない生徒が7割いる。 ▲表をもとにグラフをかくことができない生徒が7割いる。 ▲多細胞生物の成り立ちについて理解していない生徒が6割いる。

<p>英 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアワークやグループ活動に対する関心・意欲は概ね達成できている。 ○教科書の英文を英語らしい発音、リズム、イントネーションを意識して発音できている生徒が多い。 ○まとまった英文や対話文を聞いて内容を理解することができる。 ○be 動詞など簡単な文法の定着を図ることができた。 ▲間違えを恐れずに発表をしたり、英語を話したりできていない生徒もいる。 ▲基本的な文の構造が理解できておらず、自己表現ができない生徒がいる。 ▲英語の質問を英語で答えることができない生徒がいる。 ▲基本的な単語、疑問詞など身に付いていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に意欲的に取り組む生徒が多い。創作活動に意欲をしめす。 ○リスニング能力が高い。知らない英文も興味を持って読むことができる。 ○小テストの準備をしたうえで単語テストを実施している。 ○会話活動には積極的に取り組める。創作活動には熱心である。 ▲決まった生徒のみ挙手をしている。持ち物忘れや宿題忘れの生徒が一部にみられる。 ▲教科書以外の初見も問題での理解が劣る。 ▲単語が定着しない生徒がいる。小テストに対する意欲にばらつきがある。 ▲教科書の音読や発表が単調になりがちな生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として授業に意欲的に集中して取り組み雰囲気である。 ○リスニング能力が高い。知らない英文も興味を持って読むことができる。 ○小テストの準備をしたうえで単語テストを実施している。 ○会話活動には積極的に取り組める。授業での発表にも意欲的である。 ▲決まった生徒のみ挙手をしている。持ち物忘れや宿題忘れの生徒が一部にみられる。 ▲教科書以外の初見も問題での理解が劣る。 ▲単語が定着しない生徒、意欲が低い生徒がいる。 ▲教科書の音読や発表が困難な生徒や、単調になりがちな生徒がいる。
<p>調査以外の 教科についての成果 (○)と 課題(▲)</p>	<p><音楽></p> <ul style="list-style-type: none"> ○意欲的な姿勢がみられ、課題提出や実技試験にも積極的に取り組むことができた。 ○創作活動における基本的な学習内容を理解して取り組むことができた。 ○歌唱表現や器楽演奏に必要な音楽要素を理解し、意欲的に表現する姿勢がみられた。 ○ワークシートを活用し言語活動と共に意欲的に取り組むことができた。 ▲苦手意識をもった生徒の手立てを検討する。 ▲基礎的な定着が不足しており、創作活動での自己表現を行えない生徒がいる。 ▲歌詞や楽曲のもつ要素を感じ取ることができない生徒がいる。 ▲鑑賞を通し音楽的な学習が定着しない生徒がみられる。 <p><美術></p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の目標を理解し、積極的に取り組もうとしている。 ○創意工夫が見られ、構想を深めようとしていた。 ○毎回行うクロッキーや素描トレーニングに、目標をもって取り組んでいる。 ○作品のよいところを発表や文章等でまとめる力がついた。 ▲粘り強く取り組めない生徒がいて、友達にちょっかいを出す。 ▲安易にアイデアを決定してしまう生徒がいる。 ▲基礎基本となる力が身に付ける為の十分な時間がない。 ▲作品をじっくり鑑賞し感想を発表できない生徒がいる。 <p><技術・家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。 ○見本や掲示物を用意し、それを参考にしながら効率よく作業を進めさせることができた。 ○基本的な道具や機器の取り扱い方はほとんどの生徒が正しく理解できている。 ○基礎的な事項はほとんどの生徒が理解できている。 ▲忘れ物が多い。苦手意識をもった生徒の取り組み方が雑になっている。 ▲授業で学んでいることを生活に役立たせる工夫や技術と社会の関わりを考える力が定着してきていない。 ▲細かくて精度を要する作業に時間をかけてじっくり丁寧に取り組めていない。 ▲作業には熱心に取り組んでいるが、失敗の修復の仕方を理解できていない生徒がいる。 <p><保健体育> (男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーショントレーニングを取り入れたことで、運動があまり得意でない生徒も体育の授業に楽しんで参加できている。 ○レポートの提出を行い、自己の動作や取り組み方に関する考えを深め、課題の見直しを行うことができた。 ○自己の技能にあわせた、運動を実施することができた。 ○各技能の動きの特性などは理解できており、活動に生かすことができている。 ▲「失敗したら恥ずかしい」という気持ちから、様々な活動の中で積極性に欠ける部分が多い。生徒たちが活動に取組やすい、集団の雰囲気作りを図っていく。 ▲見いだした「課題」に対する解決の方法(練習の方法)などの知識的な習得を、より充実させ対応できるように図る。 ▲自己の動作分析などを含め、自己の技能を高めていく活動を推進していく。 ▲動きの名称や規則などの理解が乏しい。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チャイムでの整列、元気のよい挨拶など、意欲的に取り組もうとする生徒が増えている。昨年度からコーディネーショントレーニングを取り入れたことで、運動を楽しんでいると感じ、いろいろな動きに挑戦する生徒が増えてきた。 ○毎時間の目標に対して、自分の課題を見つけ取り組もうとする生徒が出てきた。 ○基本動作の習得のため、分解、反復の練習をしながら、記録への挑戦ができた。 ○内容などを理解し、テストだけでなく授業内で活用できる生徒が増えてきた。 ▲苦手な種目になり、積極的に参加できない生徒が数名いる。 ▲知識が充分でないため、自己課題を設定したり工夫して行ったりできない生徒もいる。 ▲基礎体力が低い、運動経験が少ないために、基本動作が習得できない生徒がいる。 ▲正式名称やルールが理解できない、理解していても実技に活用できない生徒もいる。 		

昨年度の授業改善プランに基づく結果 (○) と主な課題 (▲)	
○発表を通じて言語活動の充実を図ることができた。 ○授業に意欲的に取り組み、学びの楽しさを実感させることができた。 ○表現力や考察力を高めることができた。 ○家庭学習を習慣化させることにより、基礎学習の定着ができた。 ○自分の意見を堂々と発表できる生徒が増えた。 ○生徒の苦手意識が緩和した。 ○コミュニケーション能力を高めることができた。 ▲生徒によって取り組み方に差がある。 ▲グループのつくり方や発問の仕方。 ▲習熟度が高い生徒に対する課題。	

改善の方針	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と確かな学力の向上を図るために、個に応じたきめ細かな学習指導を行う。家庭学習を習慣化させる。社会性を育成する。 研修を通して、生徒の社会的スキル・学習スキルの向上や、教師の授業スキル・授業改善や評価についての研究を深めるとともに、OJT体制を活用した学習指導力の向上を図る。
-------	---

【本校の授業改善に向けた具体的な方策】

改善のための指導計画	<p><国語> (1年) △個に応じた指導を充実させ、文章読解のまとめに言語(表現)活動を展開することで、読解力(読むこと)と表現力(話す聞く書くこと)の向上を図る。</p> <p>(2年) △並行読書に取り組み、教科書に掲載されている説明的な文章以外の文章に触れる機会を増やし、筆者の論じ方を学ばせ、読解力の向上を目指す。書く力がほかの能力に比べて低いため、書く作業を増やし、まずは200字程度の作文に対する抵抗感を減らす。また、文章を視写し、様々な文体に触れる。加えて、他の生徒の書いた文章を相互批評し、表現力の向上を目指す。</p> <p>(3年) △国語に対する関心・意欲を高め、基礎学力の向上と定着を図る。個に応じた授業を展開して、読み解く力や、資料を分析して書く力をしっかりつけ、それに支えられた「話す・聞く」の指導を中心に、論理的思考力・表現力を養う。身近な生活から話題を探し、文章を読んで自分の表現に活かす力を身に付けさせる。</p> <p><社会> (1年) △社会的な「表現力」「思考力」「判断力」を身に付けるために、生徒一人一人が課題に向き合い、互いに学び合う学習活動に取り組む。</p> <p>(2年) △視覚的教材や班活動・グループ活動等により、実践法を工夫する。言語活動の充実をはかり、思考力・表現力を培う。</p> <p>(3年) △視覚的教材や班活動・グループ活動等により、実践法を工夫する。発表形態を工夫し、言語活動の充実をはかり、思考力や表現力を培う。</p> <p><数学> (1年) △基礎基本の定着、特に計算力の充実を図る。自分の考えを数学的に表現できるよう、数学的活動を充実させる。</p> <p>(2年) △基礎基本の定着、特に計算力の充実を図る。自分の考えを数学的に表現できるよう、数学的活動を充実させる。体験活動を増やし、関心・意欲を高める。</p> <p>(3年) △基礎基本の定着と数学的な見方や考え方の力が向上するように、生徒の興味関心を高め、意欲的に課題に取り組むような授業の工夫をする。言語活動の充実を図る。</p>
------------	--

	<p><理科> (1年) △基礎・基本の定着を徹底し、家庭学習の定着を図る。コンピュータなどのICT機器を活用し、わかりやすい授業の工夫をする。話し合いや表現の時間を設定し、思考力や表現力を高める授業を目指す。</p> <p>(2年) △基礎・基本の定着を徹底し、家庭学習の定着を図る。コンピュータなどを活用し、イメージをわかりやすい授業の工夫をする。実験はできるだけ少人数で行うようにする。実験レポート作成時、考察の時間を確保し、思考力や表現力を高める授業を目指す。</p> <p>(3年) △基礎・基本の定着を徹底し、家庭学習の定着を図る。コンピュータなどのICT機器を活用し、わかりやすい授業の工夫をする。話し合いや表現の時間を設定し、思考力や表現力を高める授業を目指す。</p> <p><英語> (1年) △読む、書く、聞く、話すの4技能が総合的に身につくように授業を組み立てる。ペアやグループでの言語活動を行い、相互に教え合い、高め合う環境を整える。自己表現活動ができるように、基本事項の定着を図り、英作文指導を行う。発表の技術の向上を図り、間違いを恐れずに堂々と英語を話す場面をつくる。教科書の英文の音読など繰り返し行い、読解力の向上を図る。</p> <p>(2年) △基礎力をしっかりと身に付けることができるよう授業を組み立てる。家庭学習の習慣を定着させることを徹底する。教科書の内容だけでなく発展的な内容や創作活動を行うことで様々な場面で英語に触れ使う機会を増やす。</p> <p>(3年) △基礎力をしっかりと身に付けることができるよう授業を組み立てる。家庭学習の習慣を定着させることを徹底する。教科書の内容だけでなく発展的な内容や創作活動を行うことで様々な場面で英語に触れ使う機会を増やす。</p>
<p>改善する指導内容 (教科、領域、観点等)</p>	<p>改善のための指導方法、指導体制</p>
<p>国語 (1年)</p>	<p>△プレゼンテーションの学習を通して、相手に伝わる工夫を考えさせる。 △話し合うことの基本(司会進行)について指導する。 △手紙の書き方を指導する時間と作文を推敲する活動時間を組み込む。 △説明的文章の要旨、文学的文章の主題が導き出せるように、ワークシートや補充プリントの工夫を凝らす。 △言語事項(漢字や文法)の小テストを行う。 △一人ひとりの能力に応じた学習展開ができるようなワークシートを作成し、個に応じて指導ができるように講師との少人数クラス分け・T T形態を使い分ける。 △基礎・基本が十分理解できていない生徒を対象に、放課後や夏季休業日に補充学習教室を開設し、基礎・基本の定着を図る。 △作文指導の際に構成を考える時間を1時間確保し、準備の段階で個別に対応する。 △読解の中心文に迫る段階で発問のステップを増やす。 △話し言葉と書き言葉の復習の場を設ける。</p>
<p>国語 (2年)</p>	<p>△並行読書に取り組み、教科書に掲載されている説明的な文章以外の文章に触れる機会を増やし、筆者の論じ方を学ばせ、読解力の向上を他めがず。書く力がほかの能力に比べて低いため、書く作業を増やし、まずは200字程度の作文に対する抵抗感を減らす。また、文章を視写し、さまざまな文体に触れる。加えて、他の生徒の書いた文章を相互批評し、表現力の向上を目指す。 △書く力を向上させるために、文章を書くための参考となる文章の触れさせる機会を増やす。短めな文章を並行読書として取り寄せ、さまざまな文体に触れさせる。 △語彙が少ないため、表現が単調になりがちである。そのため、類義語を意識的に覚えさせ、類義語を適切に使え、表現の幅を広げるようにする。 △自分の書いた作文を推敲する機会を増やし、一度書いた作文の振り返りを行う。 △教育漢字の小テストを行い、作文の中でも漢字を使う割合を意識させる。</p>

<p>国語（3年）</p>	<p>△接続詞のはたらきを理解させ、作文の中で、適切に使えるようにする。</p> <p>△国語に対する関心・意欲を高め、基礎学力の向上と定着を図る。</p> <p>△個に応じた授業を展開して、読み解く力や、資料を分析して書く力をしっかりつけ、それに支えられた「話す・聞く」の指導を中心に、論理的思考力△表現力を養う。</p> <p>△身近な生活から話題を探し、文章を読んで自分の表現に活かす力を身につけさせる。</p> <p>△スピーチ、討論などの基本的な言語活動の話型の学習を通して、パブリックスピーキングと感動を伝える表現の工夫ができるようにしていきたい。さらに論理的思考力に支えられた表現力を身につけさせたい。＜話すこと・聞くこと＞</p> <p>△200・400・600・800字の課題作文を通して、目的に応じて考えをまとめ、伝わりやすい表現方法を学習させる。＜書くこと＞</p> <p>△主題を読みとる力をつけるために、文章の構成法を学習させ、ワークシートを工夫して読みの手がかりとし、生徒の考えを深める。＜読むこと＞</p> <p>△区講師と単元別少人数指導を行い、古典に親しむ態度を養い、語彙力△文法事項への興味関心を高める。＜言語事項＞</p>
<p>社会（1年）</p>	<p>△「表現力」：ペア学習やグループ学習を毎時間設定し、言葉で伝える活動を実施する。</p> <p>△「思考力」：互いに意見を交流しまとめることができるよう、ホワイトボードを活用したグループ学習を展開する。</p> <p>△「判断力」：様々な事象を現代や自分の背活に振り返り、今後どうあるべきか生き方・在り方について考えさせる。</p> <p>△基礎基本の定着：ワークシートで予習し、授業で解決できるよう授業に取り組む。</p> <p>△机間巡視、グループ編成に工夫を加え、個に応じた学習指導が展開されるよう努める。</p> <p>△考査や提出物から学習状況を把握し、個に応じた指導の充実を図る。</p>
<p>社会（2年）</p>	<p>△ワークシートの使用や班活動・グループ学習が行える機会を設定し、学び合いの機会を充実する。学習内容に応じて発表場面を設定し、思考力や表現力を高めていく。</p> <p>△学習過程でワークや白地図・地形図等を用い、実際に問題を解くことで基礎・基本の徹底を図っていく。</p> <p>△地理的要因や歴史的事象に対し、その理由や分析を資料や統計から読み取り、自らの言葉で表現できるよう指導を行い、言語活動の充実をはかる。</p> <p>△生徒の能力に応じて言語活動やワークシートを工夫し、個に応じた学習活動を展開していく。</p> <p>△考査の結果や提出物等から学習状況を把握し、個に応じた指導の充実をはかる。</p>
<p>社会（3年）</p>	<p>△ワークシートの使用や班活動・グループ学習が行える機会を設定し、学び合いの機会を充実する。学習内容に応じて発表場面を設定し、思考力や表現力を高めていく。</p> <p>△学習過程でワークやプリント等を用い、基礎・基本の徹底を図る。</p> <p>△資料や統計から読み取ったことを、自らの言葉で表現できるよう指導を行い、言語活動の充実をはかる。時事問題と単元を結びつけ、興味関心を高める。</p> <p>△生徒の能力に応じて言語活動やワークシートを工夫し、個に応じた学習活動を展開していく。</p> <p>△考査の結果による個に応じた指導の充実をはかる。</p> <p>△身近な生活の事例や時事を活用し、単元と日常生活を結びつけて思考させる。</p>
<p>数学（1年）</p>	<p>△基礎基本の定着を図るため、少人数指導を活用する。</p> <p>△1回2問程度の計算練習を授業の冒頭に行う。</p> <p>△比例、反比例の指導では、ともなって変わる量を意識した指導する。</p> <p>△数学モデル(方程式の天秤等)を取り入れ、数学的概念育成を図る。</p> <p>△机間指導をこまめに行い、個別指導を充実させる。</p> <p>△計算のつまずきについては、1回2問程度の計算練習の結果をもとに、指導する。</p>
<p>数学（2年）</p>	<p>△基礎基本の定着を図るため、少人数習熟度別指導を活用する。</p> <p>△1回2問程度の計算練習を授業の冒頭に行う。</p> <p>△1次関数の指導では、ともなって変わる量を意識した指導する。</p> <p>△数学モデル(確率でのさいころやトランプ)を取り入れ、数学的概念育成を図る。</p> <p>△机間指導をこまめに行い、個別指導を充実させる。</p> <p>△計算のつまずきについては、習熟度別学習を取り入れ対応する。</p>

<p>数学（3年）</p>	<p>△復習や繰り返し演習する時間を十分にとり、小テストなどを通して、基礎・基本の定着が図られるようにする。 △数学に関するゲームを取り入れた授業を行うなど、生徒の興味関心が高められるような工夫をしていく。 △自分の考えを説明し伝え合う活動を取り入れる。 △個々の能力に応じた授業が展開できるようワークシートを工夫する。 △単元の特性に応じて習熟度別クラスの数やメンバーを変え、生徒の実態に応じた学習活動が展開できるよう工夫する。 △十分理解できなかった生徒などには、放課後に質問教室を開き対応していく。</p>
<p>理科（1年）</p>	<p>△随時小テストを行い、家庭学習の習慣づけおよび基礎的な知識の定着を図る。 △コンピュータなどの ICT 機器を活用し、視覚的な興味を喚起し、イメージをもたせる。 △実験では考えることを重視し、自らの考えを表現する習慣をつけていく。 △班での話し合いの時間を設け、意見を交換しながら考えることにより、より深い理解へとつなげていく。 △単元ごとに小テストを行い、苦手な生徒にも基礎の定着を図る。 △学期ごとに補習を行い、苦手な生徒にも基礎の定着を図る。 △考えさせる発問の工夫や話し合いの時間を設け、生徒同士で質問や説明をすることで、できる生徒もできない生徒もより深い理解へとつながるようにしていく。 △問題演習の時間には、基礎が定着していない子への重点指導や早く終わった生徒への課題を準備することで個々の能力を伸ばしていく。</p>
<p>理科（2年）</p>	<p>△小テストを行い、基礎的な知識の定着を図る。 △復習を都度行い、知識の定着を図る。 △デジタルコンテンツを活用し、視覚的な興味を喚起する。 △実験では考察を重視し、疑問に対して考え、表現する習慣をつけていく。 △小テストを行い、苦手な生徒にも基礎の定着を図る。 △問題演習の時間には、基礎が定着していない子への重点指導や早く終わった生徒への課題準備をすることで個々の能力を伸ばしていく。</p>
<p>理科（3年）</p>	<p>△随時小テストを行い、家庭学習の習慣づけおよび基礎的な知識の定着を図る。 △コンピュータなどの ICT 機器を活用し、視覚的な興味を喚起し、イメージをもたせる。 △実験では考えることを重視し、自らの考えを表現する習慣をつけていく。 △班での話し合いの時間を設け、意見を交換しながら考えることにより、より深い理解へとつなげていく。 △単元ごとに小テストを行い、苦手な生徒にも基礎の定着を図る。 △学期ごとに補習を行い、苦手な生徒にも基礎の定着を図る。 △考えさせる発問の工夫や話し合いの時間を設け、生徒同士で質問や説明をすることで、できる生徒もできない生徒もより深い理解へとつながるようにしていく。 △問題演習の時間には、基礎が定着していない子への重点指導や早く終わった生徒への課題を準備することで個々の能力を伸ばしていく。</p>
<p>英語（1年）</p>	<p>△ペアワークやグループ学習が行える機会を授業内に設定し、生徒同士で教え合えるような活動を重視して、基礎・基本の徹底が図られるようにする。 △基本的な知識が定着するよう、スペリングコンテスト、単語テスト、単元テスト等を計画的に行う。 △基本文型が定着するよう、音読、書く回数を増やす。 △ALT と定着を図りたい文法事項を含んだ言語活動を設定し、学習語後にスピーキングテストで確認を行っていく。 △教科書の英文を、絵を見て内容を英語で説明する発表を通して、基本文定着と発表の技術の向上を図る。 △辞書を引く活動を通して、語彙力の増強を図る。 △一人ひとりの能力に応じた学習展開ができるようなワークシートを工夫する。 △ALT や区講師の先生に机間指導を積極的に行っていただき、音読、書くことの意欲を高める。</p>
<p>英語（2年）</p>	<p>△宿題チェックをする際に、自分でも提出物をしっかりと出せているかがわかるようチェックリストを配布し活用する。 △帯の時間で英会話をを行い、重要文法を繰り返し使う場面を作り基礎を定着させる。 △ALT の授業や ICT を活用し、身の回りで使われている英語に触れる機会を作り、また創作する時間を設定する。</p>

	<p>△宿題や課題が順調に進んでいるか机間指導しながら個別に声かけをする。 その中できちんと取り組んでいる生徒のやる気につながる声かけをする。 △授業内での発言が1人1回以上はできるよう発表の場を設ける。 △非常勤講師の先生とは必ず授業前後で打ち合わせの時間をとり、生徒の授業の様子を毎回連絡、報告、相談し合い生徒にとってやりよい授業になるよう日々の授業改善に努める。</p>
英語（3年）	<p>△宿題チェックをする際に、自分でも提出物をしっかりと出せているかがわかるようチェックリストを配布し活用する。 △帯の時間で英会話をし、重要文法を繰り返し使う場面を作り基礎を定着させる。 △教科書以外の教材を用いたりICTを活用し身の回りで使われている英語に触れる機会を作り、また創作する時間を設定する。 △宿題や課題が順調に進んでいるか机間指導しながら個別に声かけをする。 その中できちんと取り組んでいる生徒のやる気につながる声かけをする。 △授業内での発言が1人1回以上はできるよう発表の場を設ける。 △非常勤講師の先生とは必ず授業前後で打ち合わせの時間をとり、生徒の授業の様子を毎回連絡、報告、相談し合い生徒にとってやりよい授業になるよう日々の授業改善に努める。</p>
評価活動の工夫	<p>○1、2学期の中間考査の解答用紙に観点別の評価を行い各家庭に通知するとともに、必要に応じて学習相談（二者面談）を行い、学力の向上を図る。</p>
家庭や地域との連携の工夫	<p>○「生活と学習のサブノート」を活用し、家庭学習の充実と習慣化を図るとともに、保護者と連携した学力向上を図る。 ○学校だより等を通して、学力向上を図る学校の姿勢を、地域・保護者に積極的にPRするとともに、理解と協力を求める。</p>
検証方法	<p>○小テスト、定期考査、漢字や英語のスペルコンテストの結果、作品、レポート、実技発表などの内容を分析し、定着度を把握し、指導方法や指導内容等の課題を明らかにする。 ○管理職による授業観察及び教員相互の授業観察を計画的に行い、授業改善に資する。 ○外部評価委員会による評価、生徒・保護者によるアンケートを実施し、その結果を分析し、授業改善に資する。 ○校内研究の取組として、研究主題を踏まえた授業を意図的・計画的に実施し、研究を深め、その成果と課題について検証を行う。</p>

【学力向上を支えるその他の取組】

- 「学習の手引き」（年間指導計画）の保護者への配布、通知、各中間考査後も含めた学習評価と通知を実施する。
- 全教科において研究授業を実施する。
- 全教員が指導案を作成し、管理職の授業観察を行う。
- OJT体制の下、主幹・主任教諭が担当の若手教員の授業を観察し、指導・助言を行う。
- 生徒・保護者による授業アンケート、学校評議員、外部評価委員による授業観察及び授業評価を行う。
- 朝読書を実施し、読解力・語い力・思考力・想像力を育てる。